

【第5号様式】

【研究助成 研究成果報告書】

平成26年6月16日

公益財団法人 小川科学技術財団
理事長 小川 信也 殿

貴財団より助成のありました研究の成果について、下記のとおり報告します。

申請者名

小西 文子



記

1. 研究課題名

インターネットテレビ電話と活用した音楽療法実施の検討

2. 申請者名(代表研究者)

氏名 (ローマ字表記)	AYAKO KONISHI
所属大学・機関名	大垣女子短期大学
学部・部課名	音楽総合科
役職名	准教授

3. 共同研究者 (下段 英訳表記)

氏名	所属機関名・学部名・役職
(氏名)
(氏名)
(氏名)

(氏名)	
-----	-----

4.研究目的

音楽療法は、音楽の持つ社会的、生理的、心理的なはたらきを意図的、計画的に活用して、障害や疾病を持つ人を対象として行われる音楽活動である。現在音楽療法は高齢者施設、障害者施設などで実施されているが、音楽療法を実施できる人材は常に不足している。西濃地域の福祉施設はここ数年間で急激に増加しており（平成16年度約80施設→平成24年度約260施設）今後も増加する傾向にある。このように施設と利用者数が増加する中で、利用者に対してサービスを提供する施設職員は常に不足傾向であり、リハビリテーションやレクリエーションに時間と人員を割くことが困難な実情がある。

インターネット電話を用いた遠隔操作による音楽療法の実施を研究、実践することにより、音楽療法士が不在の施設でも音楽療法を実施することが可能となり、施設職員の負担軽減につながり、地域福祉に貢献することができる。

本研究はインターネットテレビ電話を用いて福祉施設で音楽療法の実践を複数回実施し、利点と改善点を検討し、今後の活用について考察を行うことを目的とする。

5.研究内容及び成果の概要・本文

〔概要〕別紙に 1800 字程度で作成添付してください。

〔本文〕別紙に 6000 字程度で作成添付してください。（図や数式がある場合は 10 個程度にしてください）

6.今後の研究の見通し

今回の研究はセラピストが1つの施設と通信を行う形の試行であり、2つ以上の施設との同時通信は行うことができなかった。スタッフの負担を軽減することが目的となるならば、1人のセラピストが同時に2つ以上の施設を通信で結び、同時にセッションを行う形を検討してみることも必要となってくるのではないだろうか。今回得られた様々な知見ですぐにも現場に応用できるものがあり、適宜実践に生かしてゆきたい。

7.本助成金による主な発表論文、著書名

1. 「インターネットテレビ電話と活用した音楽療法実証の検討」
大垣女子短期大学紀要、2014年（予定）
2. 「音楽療法の心組100曲 / 777ルジ編」あかびん音楽社、2014年9月（予定）

※当財団へのご意見・ご要望がございましたら、下記へご記入ください。
お寄せいただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

この度はありがとうございました。

当初の予定よりも実験の開始が大幅に遅れてしまい、報告書の提出も年度をまたぐ形になってしまい申し訳ありませんでした。

今回の研究は機会があれば一度試みたいと思っていたのですがタイミングや予算の面で先延ばしになっておりました。この助成をいただくことができて背中を押していただきました。研究結果は、論文の他にも、9月に刊行予定の著書（楽譜集）に、利用者に提示するための歌詞をpdfでCDとして添付するなど、社会に還元できる形として出すことになっております。（本は刊行されたらお送りいたします）

これまでの貴財団の助成を受けられてきた研究者の方たちの分野と私の研究分野は多少異なりますが、助成をいただくことができ本当にありがたかったです。

今後の貴財団のますますの発展を心よりお祈りいたしております。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

以上